

平成29年度 富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター運営会議 議事概要

- 1 日 時 平成30年2月7日(水)13:30～15:00
- 2 場 所 富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター 学習室
- 3 出席者 運営委員 (※50音順)
 - 青井 洋一 (公募委員、観光ボランティアガイド、カレッジメイト)
 - 岩本 健嗣 (富山県立大学工学部電子情報工学科准教授)
 - 大森英一郎 (高岡法科大学入試課課長)
 - 岡岸 喜義 (高岡地区生涯学習団体協議会会長)
 - 奥 敬一 (富山大学芸術文化学部准教授)
 - 晒谷 和子 (前高岡市立博物館館長)
 - 柴田 善子 (高岡市男女平等推進センター所長)
 - 深井 康子 (富山短期大学食物栄養科教授)事務局
 - 県民カレッジ本部 1名
 - 志貴野高等学校 1名
 - 県民カレッジ高岡地区センター 4名

4 会議次第

(1) 開 会 [県民カレッジ高岡地区センター 山崎副所長]

(2) あいさつ [県民カレッジ高岡地区センター 尾崎所長]

本会議への出席に対し運営委員に感謝する。

当地区センターでは、多様な講座を展開している。受講者は休憩時間や講座終了後にも質問するなど、熱心である。また共学講座では、年配の方は志貴野高校の生徒と一緒に授業を受け、とても生き生きとしている。この建物には志貴野高校と生涯学習施設等が集まっていることもあり、社会人と高校生が連携を深めることができると感じている。高岡地区センターの学遊祭と志貴野高校の文化祭でも交流を深め、さらなる賑わいを創出したいと考えている。

委員の皆様方には、当県民カレッジ高岡地区センターの運営について忌憚のないご意見をいただき、協議を行っていただきたい。

(3) 自己紹介

(4) 議長選出

(深井委員が議長に選出され、議事を進行。)

(5) 議事 報告 (事務局)

【平成29年度事業の概要について】

<学習機会の提供>

①ふるさと発見講座 (全10講座、42回実施) について

(i) 人間探究コース…郷土の産業・歴史・文化をテーマに生き方や考え方を深める講座

「ふるさとの知と技」 (前期5回) ※第2回は現地研修

「ふるさとの歴史・人・文化」 (前期5回)

「ふるさとの知と技」 (後期5回)

「ふるさとの歴史・人・文化」 (後期5回)

- (ii) 教養・実践コース…地域の特色を生かして時代のニーズや流行に合わせたテーマを学ぶ講座
- 「自然に親しむ」(前期5回)
 - 「健やかにくらす」(前期5回)
 - 「ミュージアム探訪」(通年3回) ※すべて現地研修
 - 「芸術・文化に親しむ」(後期3回)
 - 「国際的視野を広げる」(後期3回)
 - 「ふるさと散歩」(後期3回) ※すべて現地研修
- ・9講座で定員を超える申込があり、その内3講座は定員の2倍以上の申込があった。なるべく多くの方が受講できるよう定員以上の受け入れを行った。
 - ・ふるさと発見講座(10講座)の平均修了率は74.6%であった。
 - ・受講者は男性の割合が高い傾向にあるが、「健やかにくらす」と「ミュージアム探訪」は女性の割合が高かった。
 - ・受講者の年齢構成は60歳以上の方で95%を占めている。

②教養講座について

[生涯学習団体協議会委託事業] テーマ「新たな出会いや夢を求めて」(全8回実施)

③自遊塾について

高岡地区センターを会場とした講座は11講座開設

④共学講座(志貴野高校の授業を生徒と共に受ける講座)について

通年24講座 前期1講座 後期2講座 計27講座を開設

- ・通年の講座の場合は、1年間毎週授業を受けることになるが、多くの受講者は熱心に授業に取り組んでいる。申込者数が定員を超える場合には初めて受講される方を優先して、抽選を行っている。

<情報提供等>

○学習情報の提供について

(i) 高岡地区センターだより「しきの」発行

第1号・第2号……講座案内(前期・後期)

第3号・第4号……事業報告(前期・後期)

(ii) 広報について

高岡市広報「市民と市政」「たかおか生涯学習情報」、射水市広報「広報いみず」、氷見市広報「広報ひみ」、ホームページやケーブルテレビ(高岡、射水、能越)の文字情報で講座受講者募集を案内

<学習相談>

○面談や電話での学習相談の実施について

- ・講座の案内や講師の紹介(内訳:約80%が講座内容、約15%が学習団体や自遊塾に関すること。その他は講師等について。)
- ・4月から12月まで約1600件の相談(内訳:約75%が窓口、約25%が電話での問合せ)

<学習交流>

①ウイング・ウイング祭について

(i) 期間 平成29年10月20日(金)～21日(土)

(ii) ステージ発表(高岡地区生涯学習団体) 1階交流スペース

茶道「清風の会」、かたかごグループうたごえサークル「のぎく」、は～とふるカメラア朗読サークル「言の葉」、高岡鳩の会、藤久会(6団体)

- (iii) ミニ講座(県民教授) 7階学習室A・エレベータホール
自遊塾「バルーンアートで人気者」、自遊塾「Let's笑いのエクササイズと歌体操」、
自遊塾「整理収納の基本」、自遊塾「活けて癒やされよう」(4講座)
- (iv) 展示発表 7階学習室B・エレベータホール
高岡地区生涯学習団体：
雷鳥会高岡支部、ニコニコパソコンクラブ高岡教室、伏木地区ボランティア「かたか
ごグループ」、生涯学習ボランティア「ローズの会」、大門ボランティア連絡協議会
「お便りグループ」、富山の名水を守る会、富山・生と死を考える会(10団体)
自遊塾：
「バルーンアートで人気者」、「やさしい絵本からはじめる英語多読」、「楽しく続
ける大人のための英語多読」、「活けて癒やされよう」(4団体)
県民カレッジ高岡地区センター活動紹介、富山県の文化財・史跡・天然記念物等紹介

②高岡地区交流会について

- (i) 高岡地区生涯学習団体協議会各団体の会員相互の学習交流や情報交換を目的に開催
- (ii) 交流会事業 6月16日(金) 9:30~15:40 氷見市(ふれあいスポーツセンター)
現地研修(濱元家、あいやまガーデン)

<その他>

○生涯学習機関との連携支援体制の確立

- (i) 広域学習サービス連絡会議を年1回実施し、情報交換や今後の支援体制について協議
県民カレッジ砺波地区センターと合同開催
今年度は、12月12日(火)県民カレッジ高岡地区センター学習室で実施
- (ii) カレッジメイト(13名)による講座運営業務への協力及び広報活動への支援
カレッジメイト会議を年3回実施

(6) 協議

(議長) 平成29年度事業報告について質問や意見をあれば伺いたい。

(委員) 学習相談について詳細を教えてください。

(事務局) 講座受講者を募集している3月と9月に学習相談件数が増える傾向にある。自遊塾や共学講座を含め、講座内容に関する相談がほとんどであるが、興味のある分野の講座の有無についての相談もある。

(委員) 高岡地区センターが企画する講座には魅力的なものが多い。講師には学者や研究者だけでなく、富山県を代表する産業界の方もおり、幅広い分野にわたって学習機会を提供しているのはよいと思う。

(議長) 次年度の講座についても、今の意見を反映した魅力ある講座の企画を行ってほしい。事務局から運営に関わる協議課題について話をしてほしい。

(事務局) 当地区センター主催講座の受講申込者数は毎年増加傾向にある。講座修了率は毎年平均すると70%~75%である。当地区センターとしてはこの修了率を上げたいと考えている。何かよい方法があれば教えていただきたい。

(委員) 受講者には皆出席の人もいれば、受講したい回のみ出席する人もいるのではないかと。また、都合で出席できない人もいることを考えると現在の修了率は妥当ではないかと。

- (委員) 曜日によっても修了率は違ってくるのではないか。土曜日は他の行事と重なることが多いのでやむを得ず欠席する場合がある。これ以上、修了率を上げるのは難しいと思う。
- (委員) 土曜日が都合悪いという人もいれば、土曜日なら都合がよいという人もいると思う。受講者のターゲットを絞って曜日を設定してはどうか。
- (事務局) 講座の修了率を協議題として挙げているのは、修了率がよくない場合は、講座に対する理解が十分ではない可能性もある。講座の内容について説明が不十分で、受講者が理解していた内容と違っていたため、途中で来なくなることも考えられる。いろんな観点から意見を述べていただきたい。
- (委員) 修了できなかった人のデータを分析し、その特性を把握してみてもどうか。1回しか出席しなかった人は、その回を目当てに受講していた可能性が高い。そういう方が多い場合には、申込方法を変更し、各回毎の受付をしてもよいと思う。そうすれば修了率も上がる。また、講座内容については、さらに詳しい情報を出すことによって受講者のミスマッチが減ると思う。
- (議長) 講座案内のテーマは具体的でわかりやすく、とてもよい。講座に関する説明が50～60字程度のものがあるとさらによい。
- (委員) 受講者の7割が高岡市民である。交通手段や駐車料金の問題もあるが、高岡市以外の方が参加したくなるような工夫が必要ではないか。そうすることによって受講者の裾野が広がると思う。
- (委員) 高岡市民は駐車料金を払うことに抵抗感を感じる人が多いと思う。駐車料金を支払ってまで参加したいと思わせる工夫というのは大変なことだと思う。
- (事務局) 学習交流について話題を移したい。毎年、学習成果の発表や学習団体の交流を目的にウイング・ウイング祭(学遊祭)を開催している。来場者数を増やしたり、各学習団体や高校生、来場者との交流を活発なものにしたりするにはどうすればよいかご意見をいただきたい。
- (委員) 広報の工夫が必要ではないか。
- (委員) 高岡市の広報誌「市民と市政」やケーブルテレビでの広報、高岡市の施設や公民館へのチラシの配布、過去の受講者へのダイレクトメールなどいろんな方法で広報を行っているが、なかなか来場者数が増えない。1階は来場者で賑わっていても、その方々はなかなか上の階に上がってこない。
- (議長) 展示発表を1階で行うことは可能か。
- (事務局) 1階は使用している団体があり、そこに加えてもらうのは難しい。
- (委員) 次年度は4階のホールをフラットにして1階と同じように使うことを考えてみたい。
- (議長) 参加型の企画もあるとよいのではないか。一方的に聞くだけでなく、親子で参加できる体験型のものがあってもよいと思う。そうすれば参加者の印象に残って、また来ようという気になるのではないか。

(委員) 1階が賑わっているというのは、たまたま通りかかった人がいるということも考えられる。短い時間なら参加しようという人もいると思う。プログラムの内容を見ると長時間拘束されるような感じがする。小さい子ども連れの来場者が、気軽に参加してみようと思うものがあるのもよいのではないかな。そうすると来場者数が増えると思う。

(議長) 1階で来場者がウイング・ウイング祭参加の契機になるイベントを行い、それ以外の所では短い時間で気軽に行える活動も考え、イメージアップを図ってみてはどうか。

(事務局) 4階ホールを利用して、参加型の企画を考えてもよい。

(委員) 数年前にも4階で縁日のようなことをやったことがある。そのときは400～500人の方が来場された。また、そういうことやってもよいのではないかな。

(委員) 1階の外のスペースを使って農産物や加工品の販売を行ってみてはどうか。ウイング・ウイング祭当日だけでなく、定期的に行うことで賑わいづくりの仕掛けにもなる。

(委員) 今年度、高岡駅横に高岡看護専門学校が開校したが、連携して協力できることがあるのではないかな。

(委員) 高岡法科大学の学祭も同じ時期に行っているのだから、できることがあれば協力したい。

(議長) 情報提供の方法について意見はないかな。

(委員) 一般論として情報機器の活用を進めるのはよいことだと思う。ホームページに講座内容について講師の動画を載せれば、文字よりもダイレクトに受講者に伝わると思う。受講者のホームページ利用率はまだ低いかもしれないが、これから高齢者になる方は益々ITリテラシーが上がってくるので、そういうことにも力を入れていけばよい。そうしたら、受講者のミスマッチも減ると思う。

(議長) 予定の時間になったので、これで議事を終了する。

(7) 閉会のあいさつ [県民カレッジ本部 中明副学長]

委員の皆様から貴重な意見や助言をいただきことに感謝する。今年度、県民カレッジでは主催講座を285講座開講し、5855名の方が受講した。連携講座を含めると1万名を超える方々が県民カレッジと関わりを持ったことになる。県民カレッジは時代の変化に合わせてそのあり方を変えていかなければならないと考えている。また、県民カレッジで行っている講座が、生きていく上の支えになったり、ヒントになったり、受講者により影響を与えることを期待している。

今年度は県民カレッジ30周年を迎える。県民の生涯学習をどれほど支えてきたかはわからないが、皆様にご意見やご支援いただき、よりよいものにしていきたい。